

認定特定非営利活動法人
れんぎ
日本雲南聯誼協会
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261
Email:yunnan@jyfa.org URL:<http://www.jyfa.org/>
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel.+86-871-3311468 Fax:+86-871-3320658
編集・発行人 初鹿野 惠蘭
印刷協力 日経印刷(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第40号

発行日 2012年(平成24年)2月15日

会報



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

認定NPO法人日本雲南聯誼協会は、本年創立12年を迎えます。皆様方から賜りました真心のご支援により、これまでに8,000人もの子どもたちが安全な校舎で勉強し、小学校を卒業することができました。

昨年、日本は史上稀にみる困難に直面しましたが、この未曾有の大災害に際して、雲南の子どもたちから被災地の子どもたちへ「日本加油」の温かいメッセージが次々と寄せられました。当協会の10年余りに渡る教育支援活

動により、雲南と日本に強い絆が育っていることを実感いたしました。子どもたちは人類の宝であり財産です。その子どもたちが、豊かな知識や知恵を身につけられる機会を用意するのは、私たち大人の責任ではないでしょうか。

当協会は、本年も未来を担う子どもたちのための活動を続けて参ります。引き続き皆様のご指導とご協力を宜しくお願い申し上げます。

認定NPO法人日本雲南聯誼協会 理事長 初鹿野惠蘭

東日本大震災支援交流プロジェクト 第3弾! 南相馬市金房小学校・鳩原小学校訪問報告

「東日本大震災支援交流プロジェクト」第3弾として、当協会初鹿野理事長、近藤義一郎古屋支部長、佐々木英介会員、木本一彰会員、佐伯義博会員の5名が11月30日、福島県南相馬市のブレハブ仮校舎での生活を余儀なくされている金房小学校、鳩原小学校を訪問、みなさんから寄せられた支援金、雲南の子供たちが書いた絵と励ましのメッセージ、友好団体「日パ・ウェルフェア・アソシエーション」からお預かりしたサッカーボール19個を贈呈してきました。



▲津波の被害を受けた真野小学校を視察



▶青木紀男教育長より現状をご説明して頂きました

南相馬に向かう道路脇にはところどころに「仮設住宅」の看板が立ち、海岸から田畑に打ち上げられた小型漁船があちこちに放置されたままでした。南相馬市役所の青木紀男教育長によると、南相馬市では地震・津波のため両親をなくした児童生徒が4人、片親をなくした児童生徒は59人、うち小学生は22人に上ります。

今回の訪問先、金房小、鳩原小は、福島第一原発から20キロ圏内で立ち入り禁止の「警戒区域」にあるため、現在は境外にある鹿島小に作られた仮設教室で授業を行っています。生徒数は金房小26人、鳩原小19人の計45人。先生は両校で計19人。ブレハブ校舎にすこを敷き詰めた渡り廊下、仮設トイレという環境です。



▶今回の支援2校は、
ブレハブ校舎で授業を行っています

贈呈式では、雲南の友達からのメッセージと、当協会の友好団体でパキスタンを支援する日パ・ウェルフェア・アソシエーション(NWA)様よりお預かりしたサッカーボール19個を子供たちに。初鹿野理事長は「今回、皆さんに中国の同じ年代の子供たちの気持ちを伝えにまし

た。がんばって勉強して、社会の役にたってください」と挨拶。ボールを受け取った金房小6年の山崎知愛さんら6人は笑顔で将来の夢を「郵便局の人になりたい」「プロ野球選手」「保育園の先生」「幼稚園の先生」などと答えてくれました。

金房小の山邊彰一校長によると「先生たちは自分自身も被災した中、3月、4月は生徒の所在確認だけでも大変でした。今も戻ってくるかどうか悩まれている親御さんがたくさんいます」と、関係者が放射能汚染に苦慮されている現状が伝わってきました。ただ、「どの学年もエネルギー、元気はあります」と頼もしいお話。鳩原小の箭内晴好校長も「子供たちも自分たちの学校という気持ちになって、廊下を走るようになりました」と紹介すると、初鹿野理事長も「子供たちが精神的に落ち着いてきたのは安心です」と安堵の表情を浮かべていました。

ただ、突然記憶がよみがえるフラッシュバック現象を起こし、泣いている児童もいることで、先生方は氣を緩められない状況です。両校は子供たちを元気づける活動の一環として、近く「学習発表会」や「運動会」を計画しており、校長お二人も「子供たち中心の活動をようやく計画できるようになった」と喜んでおられました。

初鹿野理事長が、壁新聞による子供同士の交流を協会が行っていることも紹介、「異国の友達が何を食べ、何を



▲日パ・ウェルフェア・アソシエーションからサッカーボールのプレゼント!



▲初鹿野理事長より鳩原小・箭内校長、金房小・山邊校長に教育支援金を贈呈

考えているか理解することもできます」と話すと、山邊校長は雲南省について「最近ではマラソンの選手などが合宿にいっているので、名前を耳にするようになりました」と、交流についても積極的に取り組みたい意向を示されました。

協会がこれまで支援を行った第1弾、第2弾の交流プロジェクトと違い、金房小、鳩原小のある南相馬市ではいつ終わるとも知れない放射能汚染の恐怖が今も続いている。生徒たちが自由に校庭を走り回れば、廊下を走る姿に「本当に走りたいんだろうなあと思います」という先生の言葉に心が痛みます。子供たちが当協会の活動を通じて少しでも元気になってくれれば、と思わずにいられませんでした。

東日本大震災支援交流プロジェクト 亘理町長瀬小学校の皆さんから心温まるお手紙が届きました!

会報第38号でお伝えしたとおり、昨年7月20日、東日本大震災支援交流プロジェクト第2弾として、宮城県亘理町の長瀬小学校に支援金と雲南の子どもたちのメッセージをお届けしましたが、この度、その長瀬小学校の6年生の皆さんから、心温まるお手紙を頂戴しました。

手紙は、29名の6年生ひとりひとりが一枚ずつ書いてくださったもので、それぞれに雲南や日本の皆さんへの感謝の言葉がつづられています。協会の教育支援金は、学習発表会で使う道具や楽器の購入に当てられ、学習発表会は大成功だったということです。

また、頂戴した手紙は11月の初鹿野理事長の出張時に、雲南の皆さんにご覧頂くことができました。日本の皆さんにも一部を紹介いたします。



▶昨年7月20日に雲南からのメッセージと支援金をお届けしました

長瀬小学校6年生の皆さんからのお手紙(抜粋)

みんなから支援して顶いた義援金をきぶいていただきありがとうございました。さぶて頂いた義援金は学習発表会の楽器などに使われて頂きました。子どもたちはみんな元気になりました。ありがとうございました。おかげで学習発表会は大成功でした。みんなからメッセージを読みました。ありがとうございます。元気が出せました。ありがとうございました。

▶長瀬小6年生29名の皆さんからの手紙。
きれいにつづられていました



外務省より嬉しいニュース!

支援第16校目・独龍江「巴坡僑心小学校」 ～ぼくたち元気に勉強しているよ!～

2011年10月31日、協会東京本部に嬉しい知らせが届きました。外務省「日本NGO連携無償資金協力」により建設された協会支援第16校目「日中友好巴坡僑心小学校」の事後調査報告書です。

報告書によると、10月11日、重慶日本領事館の外部委嘱員が、地元政府・教育局とともに、独龍江の巴坡小学校を訪問しました。協会の支援によって建設された校舎は現在もよく活用されていて、1年生から3年生の児童37名が元気に勉強しているということです。校舎一階には、日本のODAによって建設された旨が書かれたプレートと「日中友好巴坡僑心小学校」の看板も掲げられていました。

独龍江は、協会の支援地域の中でも最も奥地にあり、現地に入るまでの道のりは並大抵のものではありません。2004年の初めての視察や2007年の開校式典に、



協会全国巡回写真展、ついに九州上陸!

12月13日(火)～18日(日)、福岡県の福岡NHK放送局内NHKギャラリーにて、協会全国巡回写真展「笑顔を君に」を開催しました。

この写真展は、これまでの協会の活動を改めて振りると共に、より多くの方に協会を知って頂く目的で開催、2011年6月の大分を皮切りに全国を巡回し、今回アジアの玄関福岡にやって来ました。

会期前日の12日、初鹿野理事長と事務局職員の高橋さんは、福岡在住の協会顧問・樋口忠治さん・会員・波平元辰さんと合流し、イベントのために東京から駆けつけて下さった会員・佐々木英介さんのものと、子どもたちの写真・色鮮やかな民族衣装や民芸品などを展示し、福岡の地に小さな雲南省を作り上げました。

写真展2日目の14日にはNHK福岡放送局の取材があり、初鹿野理事長がインタビューを受けて、福岡の方に向け写真展と協会のPRを行いました。番組の放送以降は来場者が増え、6日間の開催で約90名の方にご来場頂きました。また、会期中、九州の大学生8名が、ボランティアとして活躍して下さいました。ご来場者・ボランティアの皆様をはじめ、全ての皆様に改めて御礼申し上げます。中でも、会場手配から搬出作業に至るまで多大なご協力を下さった波平会員に心より感謝致します。

福岡での写真展は初めての試みで不安もありましたが、驚いたことに来場者の中に「雲南省」を知っている方が多く、アジアの玄関福岡ならではの強みを感じました。雲南省に止まらず、協会の活動に興味を持って頂けたことを嬉しく思うと同時に大変大きな自信となりました。これを受け、2012年4月10日(火)～15日(日)、同会場にてさらにパワーアップした写真展を行う予定です。もちろん、引き続き全国巡回も行います。皆様是非お立ち寄りください!

初鹿野理事長、NHK福岡・佐々木理恵アナウンサーのインタビューを受けました!



樋口顧問(左)と大学生ボランティアの皆さん。ご協力ありがとうございました!



【ボランティア協力(敬称略・順不同)】
秋田晴香、鞋間沙弥加、犬飼未央、小柳諒子、中野伊世菜、柿本健太郎、原志帆、平田英美、樋口忠治、波平元辰、佐々木英介、佐伯義博、初鹿野惠蘭、高橋瑞季(東京本部事務局)

独龍江への道のりは
険路を極めます。



文字通り命がけで
参加した初鹿野理
事長をはじめとする
会員・支援者の皆さんにとって、今回の事後調査報
告はより嬉しい知らせだったのではないでしょうか。
ただ、支援当時、外装の塗り替えしかできなかった
宿舎は劣化が進んでいて、現在天井が剥がれるなどの
危険な状態にあるといいます。協会では、地元政府に
確認を取り、今後の支援についても可能性を探ってい
きます。



新しいノートで
勉強がんばるよ!

初鹿野「未来を担う日中の架け橋を」 人材育成プロジェクト始動!

2011年11月7日～21日にかけて、初鹿野理事長が雲南省に出張し、現地在住の平田栄一特命支部長とともに雲南大学済水学院、昆明女子中学校、雲南省招商局などを訪問、責任者と来年の日中正常化40周年を見据えたイベントの共催や、経済交流、姉妹都市(校)提携、協会で準備中の人材育成プロジェクトについてなど、多方面に渡る協議を行いました。

雲南には日本に興味を持ち、日本語を学ぶ大学生がたくさんいますが、将来日本に関わる仕事がしたいという彼らの活躍の場はそれほど多くはない、結局は、折角の語学力や日本への情熱を活かせないという現状です。そこで、協会では、実践的日本語やビジネスマナーの講習、日本への招聘、日本の学生との交流などによって若者の可能性を広げ、日本に対する敬意と愛情をもった若者たちが、将来新たな日中の懸け橋となるバックアップをする「人材育成プロジェクト」を立ち上げることになりました。プロジェクトの一環として、現在、片岡巖協会顧問が代表を務める技術評論社のご協力を得、日本語の書籍を雲南の大学に寄贈する準備も進めています。

11月18日には雲南大学済水学院日本語科の学生が中心となって初のボランティア会議を開催し、チームを結成して組織的に協会活動に関わっていくことを確認しました。



協会雲南支部事務局で行われた
第1回現地大学生ボランティア会議の様子

「25の小さな夢基金」 サポーター募集中!

協会は2008年より経済事情や伝統的価値観などから学校に通えない少数民族の女の子たちの受け入れ支援を行なう雲南省「昆明女子中学校」春蕾クラスと協力し、同クラスの女子生徒を1対1で支援して頂くサポートを募って就学支援を行っています。現在支援を待つ女の子は34名。皆様のご協力、お待ちしております! 詳しくはホームページをご覧ください。

URL http://www.jyfa.org/2_education/edu_8.html

①名前 ②民族 ③家族構成／一家の年収 (1元=12円で計算) ④好きな教科 ⑤趣味 ⑥将来の夢

- | | |
|--|---|
| | ①李曉仙 ②傣族 ③祖父母・両親・妹の6人家族／900元(約10,800円) ④国語
⑤バドミントン・読書 ⑥今まで自分を助けてくれた方に恩返しがしたいです。私と同じような貧しい学生を支援し、多くの人に私の故郷を知ってもらいたいです。 |
| | ①陸洪娟 ②チワン族 ③両親・姉の4人家族／700元(約8,400円) ④英語・体育 ⑤歌・陸上・バスケット ⑥故郷の人々と一緒に故郷の発展のために貢献したいです。泥道をアスファルトに代えて、交通網をもっと発展させて、外の世界との繋がりを強くしたいです。 |
| | ①白媛 ②ハニ族 ③両親・兄・姉の5人家族／900元(約10,800円) ④数学 ⑤運動・読書・歌うこと・花を育むこと ⑥私が一番したいことは、故郷に無料の補習学校を作ることです。村には字が読めない人も少なくありません。全ての子どもたちが十分な教育を受けられるようにしたいです。 |
| | ①杜聰聰 ②ペー族 ③両親と3人家族／1,800元(約21,600円) ④国語・英語 ⑤歌うことで飄簫笛を吹くこと ⑥故郷にバスケットコートや運動設備のある広場を作って、皆さんで運動ができる場所を提供したいです。今は石灰でコースを引いて走る跡が舞い、みんな苦しそうなので、学校の校庭にトラックコースを作りたいです。 |
| | ①劉迪 ②回族 ③両親・姉の4人家族／1,000元(約12,000円) ④国語 ⑤運動・踊り・歌うこと ⑥時代の流れについていくよう、教育面に投資したいです。今は小さな小学校があるだけで、ほとんど子どもたちは学校に行っています。こういった子どもたちを助けてみたいと思っています。 |
| | ①彭建蘭 ②イ族 ③両親・兄・姉の5人家族／2,000元(約24,000円) ④英語 ⑤読書・歌うこと ⑥村の子どもたちの知識を増やしています。学校が山の中にあるので先生はあまり知識がなく、子どもたちも新しいのを学べていません。私は頑張って勉強して先生にならうと思っています。 |

「25の小さな夢基金」

生徒から サポーターへの 手紙

少数民族女子高生とサポーターの間に交わされる、心温まるお手紙をご紹介します。



尊敬するT様

こんにちは!

ご支援ありがとうございます。日本で地震があったにも関わらず、私を支援してくださっている事に感激しています。テレビで日本が復興しつつある様子を見て、とても嬉しく思いました。無常な大災害に立ち向かうとき、私たちの力はとても強くなるのです。

私は頑張り申します。7人の大家族の中で育ちました。家はとても貧しく、姉と兄は仕方なく学校を中退して働いていますが、私は卒業するまで勉強を続けられることになり、本当に嬉しいです。うちには中学生の弟もいるんです。

T様のご支援を受けられるのは、本当に幸運なことです。ご支援のおかげで、家計の負担も軽減しました。T様の善意は、必ず自身に報いとなって返ってくることでしょう。

県婦人联合会(協会注: 合同で支援を行なう現地団体)の助けによって昆明女子校に進学でき、更にT様の援助をいただいて、奇跡と希望を見出だすことができました。この感激は、言葉に表すことが出来ません。私はきっとご恩に報います。どうかT様の全てが順調で、ご健康でありますように。

謝謝!

連載

ここにちはCSR

一協会を長年支えてくださっている法人会員からのメッセージー

夢は自分の手でワクチンを打つてあげること 第4回○株式会社ナイチンゲール

会社概要 2000年9月設立。医療機関向けの看護師紹介ならびに派遣、シルバービジネスや企業における健康管理、在宅看護など看護に特化した人材派遣が業務。東京本社のほか札幌、名古屋、大阪、福岡に支社を置き、登録スタッフ数は2万人以上。ライセンスを持つプロとしての自觉、プライドを持った仕事を理念に掲げ、本社には研修室も設置、技術の向上を目指している。

所在地 東京都渋谷区道玄坂2丁目8番7号

TEL : 03-5457-3370 FAX : 03-5457-3371 http://www.nightingale-web.com/

社長の関根富士子さんは2008年1月、所属する「たまがわロータリクラブ」のメンバーでもある三木秀隆会員らに誘われ、初鹿野惠蘭理事長とともに初めて雲南を訪問。成田空港で待ち合わせた初鹿野理事長の第一印象は「まじめくさって、とっつきにくそう」。金髪でピンクの携帯という関根さんに初鹿野理事長は「ぱっくり」したそうですが、二人はすぐに意気投合、「惠蘭」「富士子」と呼び合う二人の会話には今も笑いが絶えません。

関根さんが雲南で見たのは、壊れかけたボロボロの校舎で目を輝かせて学ぶ子供たち。「言葉は分からなくてとも同じ言葉が氣氛。中国がよけい好きになりました」と、帰国後すぐに社員5人とともに協会に会員登録、「25の小さな夢基金」でも2人の女子生徒を支援していただきました。「社員も現地に」という方針で、同社からはこれまで大沼裕之取締役ら數人もツアーに参加。会員でもある大沼さんは、雲南の子供たちについて「写真のためでない、話しかけると出てくる自然な笑顔が印象的」と話しています。



支援第19校目老木壙小学校の開校式にて、
関根さんとM族の子供たち



昨年の夢基金卒業式には、ナイチンゲールを代表して社員の松岡慶子さんが参加

*CSR=Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)：利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

高齢化社会を迎える中国は、同社にとって健康管理、シルバービジネスの巨大市場でもあります。「会社としてもビジネスの機会は狙っています」と、関根さんは北京大のEMBA（企業経営者向け経営学修士）の短期講座を履修、現在も中国語の勉強を続けています。関根さんの夢は「子供たち一人ひとりに自分の手で予防接種のワクチンを打つてあげること」。その夢の実現、協会としてもお手伝いさせていただければ嬉しいです。

協会ボランティア通信 連載 第2回

望みはこの協会を ぶつつぶすこと 佐々木英介さん



協会活動あるところに
佐々木さんあり!



協会支援第19校目「老木壙小学校」
M族の子どもたちと

「究極の望みはこの協会をぶつつぶすこと」と、いたずらっぽく笑うのは会員の佐々木英介さん。「いろいろな支援が実現して、協会が必要なくなるのがベストじゃないですか」。高くストレートな目標、恐れ入ります。

帽子とひげがトレードマークの佐々木さん、本業は各種イベントの演出。5年ほど前、世界で困っている子供たちのために役立つたいと思いつた、チェックしたのは各ボランティア団体の演出が効かない「決算書」だった。たまたま協会のホームページに目が止まり、資金の大半を支援に使っている内容に「よくやっているなあ。これはマジだな」と驚いたのが、協会との縁の始まりという。

2008年4月、初鹿野理事長に勧められて初めて訪れた雲南で目にしたのは、報道されている経済発展著しい中国とは全く別の世界だった。「実際に子供たちと接してみると全然違った。よし、何かさせてもらおうという気になりました」

もう6~7回にある雲南訪問、皆勤のグローバルフェスタなどのほか、昨年は「東日本大震災支援交流プロジェクト」による3回の被災地訪問にも全て参加。「行かない分からないから」と譲るが、「協会の活動ある所に佐々木さんあり」と言っても過言ではない活躍ぶりだ。

そんな佐々木さんも最近は支援活動の難しさを感じている。「正しくても時代の流れや人々の考えに即していないと受け入れられない」。会員の方々に納得して参加してもらえる支援の形とは何か、想いをめぐらせている。

6度目の秋！恒例、八王子いちょう祭り！

2011年11月19日(土)・20日(日)の2日間、協会は恒例となった八王子いちょう祭りに参加しました。ボランティアリーダー峰尾勝美さんのご尽力により、気づけばもう6度目の出展です。

初日は生憎のお天気でしたが、2日目はうってかわって絶好のお祭り日和となり、甲州街道の歩道は人で溢れました。多摩御陵付近のメイン会場の混雑は大変なもので、あたり一面がまるで原宿の竹下通りになったよう！それもそのはずで、この日の来場者数はいちょう祭り史上最多だったそうです。この日、小池洋子さん、楠山紀夫さん、鹿児島からおいでくださった新内親典さん、設立当初のスタッフだった池田章子さんなど、会員の皆様も大勢立ち寄ってくださいました。



峰尾リーダーとボランティアの皆さん。

2日間で頂戴したご寄付は30,926円。お越し頂いた皆様、ボランティアの皆様に改めてお礼申し上げます。来年もどうぞ宜しくお願ひ致します！

【ボランティア（敬称略・順不同】 峰尾勝美、峰尾洋子、東郷浩、吳井順、陳恬、鈴木龍司、李勤、張楠、岩沙圭、井上祐子、木本一彰、林則幸、中村有里子、事務局（滝澤崇、山田美葉、高橋瑞季）会場提供=小島様



たくさん感謝を込めて！ チャリティー忘年会 2011！

2011年
12月17日 17時～

恵比寿BEER STATION

過去最高、120名を超える皆様に
ご参加いただきました！

雲南での活動に
ご協力くださいた
石井勝己先生ご夫妻（左）とアサヒ秋葉哲さん。
もちろん感謝状を差し上げました



毎年クールなダンスを
披露してくれる
ブランニューダンス
マーケットの若者たち



鶴佑くんは神戸に住む
協会会員のお爺様に代わって
ご両親とご参加



5日後の22日には、事務所内で
ボランティア忘年会も行われました！



今年も参加者全員で少数民族の踊りを踊りました！

【感謝状贈呈（敬称略）】石井勝己、池田弘一、許澤友（前中国大使館領事部総領事）、劉敬帥（同領事）、佐々木英介、佐伯義博、岩間辰志、佃純誠、佐藤芳明

【ご協力・ご寄付（敬称略・順不同）】サッポロホールディングス株式会社、株式会社技術評論社、株式会社加藤文明社、ブランニューダンスマーケット、大月カントリークラブ、21世紀のカンボジアを支援する会、合資会社村上製本所、歌川葵子、三木秀隆、森本敏

【ボランティア協力（敬称略・順不同）】田井のり子（NORINE）、高山千代美、小林稔、佐々木英介、姓名理、徐芝よう、岩沙圭、張楠、静雪風、時田梓、伊藤貴美子、瞿一松、井和樹、峰尾勝美、ブランニューダンスマーケット、林則幸、弓立伸也、内藤麻

【日本雲南聯誼協会より】新井淳一 謹問、岩間辰志 謹問、小澤文穂 謹問、片岡義範、東郷浩 謹問、杉谷隆志 謹問、事務局 謹問、渡辺功理 謹問、大篠修平 謹問、唐澤英安 謹問、初鹿野惠蘭 習務監事、大篠修平 謹問、唐澤英安 謹問、初鹿野恵蘭 習務監事、佃純誠監事、近藤鏡一名 古屋支部長、初鹿野惠蘭理事長、東京本部（滝澤崇、山田美葉、高橋瑞季）

2011年にご入会・ご寄付くださった皆様（敬称略・順不同）

●ご入会●富澤政則／富澤とも子／佐藤正視／高橋弘幸／阿蘇義弘／池田充子／斎藤秀紀／石黒覚／渡辺勝正／渡辺静枝／平松宏子／本間芳夫／井手窪剛／柏本元／吉田保之／木本一彰／郭靖／今朝香／林郁／段詩濤／平本哲雄／池田竜男／高橋淑子／弓立伸也／増田俊壽／安達隆男／村上一郎／佐藤和子／正立弘惠／高橋竹夫／織田文男／毛利忠雄／小野寺真佐美／松浦辿／本間敏雄／石黒忠／島田信／池田一吾／佐藤ちや子／伊藤広子／舒澀萍／佐藤隆信／伊藤明子／新内親典／佐々木紳彭／穗積甲子男／北本清／下野雅之／石井勝己／中村達／鶴名樹理／近藤信行／岩沙圭／井上薰生／功／原尻利子／小池明夫／福／さくら福社会／株／パラダイム（株）BYM／株アムロン／高園産業（株）／株マハチ村松／サッポロホールディングス（株）／アサヒグループホールディングス（株）／三浦勝巳／石塚賢之／佐野律子／大塚芳子

●ご寄付●安居信策／安仁屋政武／伊藤広子／伊藤明子／井手窪剛／浦田峯子／遠藤功／奥崎弘久／岡隆史／下道國／加瀬春雄／加藤毅／加藤潤／歌川榮子／堀山公介／閑根富士子／丸藤茂也／岩井薰生／岩間辰志／岩崎保／カワモトミツコ／久慈智弘／宮崎國雄／宮澤敏文／弓立伸也／境收／近田将人／近藤森雄／近藤由美子／近藤惠子／近藤鉄一／古屋昭弘／江角英之／江川嘉美／荒山大輔／荒川一郎／高橋瑞季／高橋福子／高橋由美子／高山大介／今吉哲見／根岸恒次／佐々木英介／佐々木紳彭／佐藤ちや子／佐藤香織／佐藤修子／佐藤芳明／佐藤隆信／佐藤和子／佐伯義博／博澤健／斎藤秀紀／三木秀隆／山口純大／山中芳夫／山田美葉／市川克弘／志田佳信／糸山敏和／寺内慶一／寺内明子／鹿島茂／七田誠／柴家嘉明／狩野伸洋／狩野信子／渋谷陽／井上薰／初鹿野道子／初鹿野信子／初鹿野惠蘭／勝尾修／小出和夫／小西敏弘／小池洋子／小池和重／小野寺真佐美／小野保／小林尚礼／小林稔／松井和樹／松浦辻／松阪善夫／松尾淳／城戸弘人／新井慶子／新木元治／森伊知郎／森川弘道／森本啟子／真砂泉／須田芳宣／水口俊裕／杉谷隆志／正立弘惠／西牧義江／西木敏夫／西野博記／青山福／齊藤眞喜／石黒忠／石森惠子／石川景子／石川信一／千々賀千鶴／川本宣彦／浅井美惠子／浅井薰／早出昭雄／早川香子／舟川徹／村松聰兒／石川豊樹／太田英明／久保雄司／大江真寛／大石不二夫／大崎功雄／池房英／竹本琴子／竹本淳一／中前幸惠／中村公一／中村公一／中村有里子／中村匡之／中野茂実／北本清／堀照夫／本間敏雄／末本剛／茂木康三郎／毛利忠雄／木村哲也／木村隆男／木本一彰／矢田部禎夫／野裕谷美子／林秀子／鈴木肇／舒澀萍／枚芽／濱崎成之／蛇名樹理／都溝水墨画／篆刻教室／アルプス三十路ハイの会／旭ジョイステックス（株）／ラ・サール学園／JR東海労働組合／JR貨物労組／中庄（株）／財／一財橋綜合財團／（株）完壽堂／（株）加藤明社印刷所／（株）工道商工／（株）ナインゲル／（株）サンフーマー／（合）村上製作所／昭和情報プロセス（株）／東京カラーボトルリンク（株）／日本雲南聯誼協会役員顧問会／伊書霏／文羅佳／蒲芸明／杜社／仰英／丁謙／文小匂／劉玉玲／丁美蘭／周蘭萃／梅英／王英／秦声玉／王紅／趙佳／董思源／林蕙／胡磊／陽黎／張耀龍／孟晶／曲由娜／趙曉倫／馬錦才／謝晶／曹天翔／王昆霞／楊双国／南梅／林青／林娜／徐宏基／華婧婧／王繼義／楊晓凡／李進／陳中海／陳敏／周凡／李真真／張希玲／林傑／馬子州／丁勇軍／鄧飭飛／湯淇洪／袁勤／甘露／舒誠／雲南海外聯誼会／雲南省帰国華僑聯合會／昆明帰国華僑聯合會／硯山県華僑聯合会有志／文山州華僑聯合会有志／德宏州瑞麗華僑聯合会有志／迪慶州外事弁公室有志／迪慶州商務局有志

心より感謝申し上げます

新顧問もご就任！ 第2回・3回役員顧問会開催！



2011年10月27日（木）と2011年12月1日（木）、それぞれ2011年度第2回目、3回目の役員・顧問会が開催されました。

会では、東日本大震災支援交流プロジェクトによる三度の被災小学校訪問、7月と9月に行われた雲南での現地活動・秋のイベント出展、企業へのDM発送などの報告が行われるとともに、イベント出展のあり方や、今後の活動展開について、活発な議論が交わされました。また、2011年11月より、協会会員で社会福祉法人さくら福祉会理事長の佐藤芳明氏に協会顧問にございました。

就任いただいたことを、ここにご報告いたします。更に、来年度には、佐藤顧問のご協力のもと、協会の山形県酒田支部も発足予定です！

聯誼協会役員顧問は、本年も有意義で実りある協会活動のため、引き続き知恵と力を出し合っていきます。本年も宜しくお願いいたします。

[第2回役員顧問会出席者（敬称略・順不同）] 初鹿野惠蘭理事長、桂正徳、大鷲修平、初鹿野薰、中村有里子、唐澤英安（以上理事）、村松健児、佃純誠（以上監事）、新井淳一、岩間辰志、澤文穂、片岡巖、東郷浩（以上顧問）、溝澤崇、山田美葉、高橋瑞季（以上事務局）

[第3回役員顧問会出席者（敬称略・順不同）] 初鹿野惠蘭理事長、桂正徳、大鷲修平、初鹿野薰、中村有里子、唐澤英安、遠藤功（以上理事）、村松健児（監事）、岩間辰志、澤文穂、片岡巖、東郷浩（以上顧問）、三木秀隆、木本一彰、林則幸、松井和樹（以上会員）、山田美葉、高橋瑞季（以上事務局）

平田特命支部長インタビュー！ —その4— マイカーブームの昆明

2011年11月、昆明市の自家用車登録台数が150万台を突破したという。昆明市の人口が600万人といわれているので、単純計算で実際に4人に1人がマイカーを所有していることになる。全中国でマイカー所有率は11位、2010年から11年にかけての年間増加率はなんと1位だそうだ。その所為か昆明市内の道路はいつも渋滞している。雲南師範大学正門前の「一二一大街（イーアールインダージェ）」は夕方4時半を過ぎると片側3車線のすべてが車で埋まり、その列は數キロ後方まで続く。交通渋滞はいまや昆明の「懲しき新名物」となっている。

その渋滞を毎日のように眺めていて感じた。渋滞の原因は、車の多さもさることながら、最大の原因是車や電動バイクの運転者の低いモラルにあるようだ。少しでも前に進みたいという欲望がそうさせるのだろう

か、車・バイクの運転者は自分の前方に隙間があればすぐに突入する。おまけに“絶対に”と言ってもよいくらい道を譲らない。対向車線にはみ出し対向車をストップさせるのも平気。横断歩道でも同様で、歩行者の安全な通行よりも自分たちの走行が最優先。歩行者が横断歩道で立ち往生することは日常茶飯である。そんな“傍若無人の振る舞い”に歩行者からブーリングが投げられることがあるが、それを意に介するほど“神経細やかな”ドライバーは一人もいない。



氏名：李迎偉さん
年齢：23歳
職業：自動車販売
家族：4人
大切なもの：生活
夢：好きな仕事をすること
いま幸せ？：普通
仕事は好き？：普通
尊敬する人：父親
日本を知っている？：知っている
日本はどう思う？：好感をもっている

連載

鏡頭裏の世界

レンズの中の世界

No.10 文明の交差

尋甸のとある冬の一日。緩やかな時の流れの中を、自動車とロバ車が行き交う。（撮影：松井和樹
2011年12月 雲南省・昆明市尋甸回族族自治県）

皆様のご投稿をお待ちしております！



データ：yunnan@jyfa.org

郵送：〒162-0846 新宿区市谷左内町21-13 1階
日本雲南聯誼協会「レンズの中の世界」係

雲南を彩る 25の星たち 連載第20回 アチャン族

アチャン（阿昌）族は中国雲南省にだけ分布する民族です。その歴史はとても古く、中国の歴史書に、「岷昌」「我昌」「俄昌」などの名前で度々登場しますが、ルーツは良くわかっていません。ただ、比較的早い時期に雲南省北西部の三江地域（現在の世界遺産）で生活していたという記録があり、13世紀には保山県など現在の居住地域に落ち着いたといいます。現在の人口は約3万人、漢族・タイ族と雜居していたため、小乘仏教を信仰

しています。独自の言語「アチャン語」をもちますが、文字がないため、書くときは漢字やタイ族の文字を使うそうです。

アチャン族の特徴は、なんと言ってもアチャン刀（戸撒刀）！独特の方法で鍛える刀剣はとても品質がよく、周辺に住む他の民族にも愛用されてきました。アチャン族の若い男性は、刀と一緒に三叶簫という音色の美しい笛をいつも持ち歩いていて、ふとした瞬間やきれいな女の子に出会った時に、その笛を吹くそうです。アチャン族の郷に行ったなら、是非注意深く観察してみてください。白いターバンを巻いているのが未婚の男性です。あなたが素敵な女性だったら、もしかして笛を吹いてくれるかも。ちなみに、既婚者は男性も女性も濃紺のターバンを巻いているそうです。（雲南支部）



「25の小さな夢基金」を昨年卒業した寸金芬さんも保山出身のアチャン族



80°
中南民族
アチャン族

速報！

大宮支部新春パーティー開催



1月9日に上尾で行われた大宮支部新春パーティーには108名がご参加くださいました！



[大宮支部秋のイベントボランティア協力（敬称略・順不同】久慈智弘、大泉國雄、市川由美子、青柳茂樹、岡崎るみ、丸田智代、金子沙樹、李俊、看護学生4名、中学1年生2名、羽河清弘、川口邦夫、郭鄰、丸田智代、寺内明子支部長

イベント情報

●協会写真展「笑顔を君に」in 多摩

日時：2月16日(木)～20日(月)10時～20時
場所：京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター
AB館5階連絡ブリッジギャラリー（東京都多摩市）

主催：日本雲南聯誼協会

●2011年度第4回役員顧問会

日時：3月24日(土) 時間未定
場所：ホテルグランドヒル市ヶ谷

●協会写真展「笑顔を君に」in 福岡2nd

日時：4月10日(火)～15日(日)10時～18時
場所：NHK福岡放送局内NHKギャラリー（福岡県福岡市）

主催：日本雲南聯誼協会

●アースデイ東京 2012

日時：4月21日(土)・22日(日)
場所：代々木公園（東京都渋谷区）

主催：アースデイ東京2012 実行委員会

●協会写真展「笑顔を君に」in 滋賀

日時：5月頃
場所：未定（滋賀県）

主催：日本雲南聯誼協会

●合同写真展「アジアの子どもたち」(仮)

日時：5月25日(金)～27日(日)
場所：神奈川県民センター展示場（神奈川県横浜市）

編集後記



協会のプロジェクトで初めて南相馬に行き、厳しい現実を目の当たりにしました。同時にそれを文字にして伝えることの大切さも改めて実感しました。東日本大震災を受け、昨年は多くの人が自分の生き様を問われました。僕自身は大学卒業後、中国に留学や駐在をし、今も中国人スタッフに囲まれて仕事をしています。雲南省の教育支援も東日本の復興支援も、少しでも良い社会を次の世代につないでいく目標に変わりはないと思います。日中の子供たちの笑顔のために頑張ります。（編集長・木本一彰）